

0.4% 支援事業に投票を

本年度の市民公益活動団体支援事業「0.4（オーシュウ）%支援事業」の投票が始まりました。あなたの1票が「協働のまちづくり」の実現につながる本事業。ぜひ投票をお願いします。
■問い合わせ＝まちづくり推進課市民活動係（江刺総合支所内・内線 322）

この事業は、社会的課題の解決や、よりよい市民生活の実現のために、市民公益活動団体（NPO法人やボランティア団体など）が自ら企画・実施する事業を、市民の皆さんが投票を通じて応援する制度です。それぞれの世帯で相談して、応援したい事業を選択してください。皆さんの投票は選択事業数に応じて、市民公益活動団体への補助金額に反映されますので、忘れずに投票をお願いします。
詳しくは、本号と同時配布の特集号をご覧ください。

- 投票できる人 平成26年4月1日時点で、市内に住所を有する世帯
- 投票方法 特集号6ページの投票用紙に、支援したい事業の番号（3つ以内）と必要事項を記入し、郵送または提出先に提出
- 投票期限 5月9日（当日消印有効）
- 持参する場合の提出先 まちづくり推進課（江刺総合支所3階）、水沢総合支所事務局（本庁4階）、各総合支所総務企画課、各地区センター
- 受付時間 午前9時から午後5時（土日祝を除く）

出前説明・投票会を実施

地域の会議など、皆さんが集まる行事に市職員が出向き、本事業の趣旨などについて説明します。
また、その場で投票もできます。ご活用ください。
○対象＝概ね市民10人以上が集まる会議、集会など
○申込期限＝開催希望日の5日前まで
○その他＝申し込み方法や詳細は、まちづくり推進課までお問い合わせください

公開プレゼンテーションを開催

支援対象団体の皆さんによる、事業内容の発表会を行います。発表を聞いて、その場で投票することも可能。投票用紙を持参の上、ご参加ください。
○日時＝4月20日（日）
午後1時半から
○会場＝市民活動支援センター（メイプル地下）



魅力ある地域づくりに向けて

市は、特色ある地域づくり事業を募集しています。これは、地域住民参加の創意工夫による自主的な活動に、補助金を交付するものです。皆さんも、地域の特性を活かした魅力的な地域づくりに取り組んでみませんか。

■問い合わせ＝まちづくり推進課市民活動係（江刺総合支所内・内線 322）

- 【補助金交付の対象】 各地区センターの所管区域を越えて地域の活性化のための活動をする団体で、次の全てに該当する団体
 - ①規約・役員・予算・事業計画を定めていること
 - ②市内に在住または勤務する人を含む団体であること
 - ③代表者が成人であること
 - 【補助金の対象となる事業】 次のいずれかに該当する事業
 - ①地域の課題解決を図る
 - ②地域住民の一体感を醸成する
 - ③地域の魅力を高める
- ※他の補助制度の適用を受ける事業は対象外
- 【補助金額】 事業対象経費の2分の1以内の額（限度額50万円）

- 【申請方法】 提出先または各地区センターに備え付けの書類（市ホームページからもダウンロード可）に必要事項を記入し、郵送または提出先に提出
- 【申請期限】 5月9日（日）
- 【受付時間】 午前9時から午後5時（土日祝を除く）
- 【提出先】 まちづくり推進課（江刺総合支所3階）、水沢総合支所事務局（本庁4階）、各総合支所総務企画課



市が東北誘致に取り組んでいる「国際リニアコライダー（以下「ILC」計画）」について最新情報をお届けします

希望のひかり 第18回

市は、前回紹介した「ILC出前授業講師養成講座」の第2回を3月14日、奥州宇宙遊学館を会場に開催しました。今回は、この講座の様子などをお知らせします。

ILC出前授業講師養成講座（第2回）

本講座は、中学生を対象としたILC出前授業の実施に向けて開催したものです。今回は、東北大学大学院理学研究科の石川明正助教が「ビッグス粒子とILC」と題して講演。この日参加した、出前授業の講師予定者や市民など約30人は、石川氏の話に熱心に聞き入っていました。



ヒッグス粒子の発見について語る石川氏

考えは古代ギリシャにまでさかのぼり、素粒子物理学は1897年にトムソンが電子を発見したことで幕を開けたことを紹介しました。電子の発見以降、加速器実験によって次々と新たな素粒子が発見さ

れ、標準理論が打ち立てられたことも解説。この理論からはノーベル賞が数多く出ており、南部陽一郎博士や小林誠博士、益川敏英博士なども受賞し、日本人研究者の貢献が大きいかも話しました。
また、2012年7月にヒッグス粒子が発見されたことで、ILCの必要性が高まったことを強調。ヒッグス粒子の性質は謎に包まれており、「本当にほかの素粒子に質量を与えているのか」「1種類だけなのか」などの謎をILCが解き明かすことで、「標準理論を超える『新理論』の姿が見えてくる」と指摘。
「素粒子の謎の解明には、ヒッグス粒子が鍵。ILCでぜひ研究したい」と熱意を示しました。

石川氏は、このほか、スイスの欧州合同原子核研究機構（CERN）の大型円形加速器「LHC」と比較しながら、ILCの特徴などを説明。円形加速器ではエネルギーの損失が生じることや、LHCに比べて実験の精度が非常に高いことなどから、ぜひILCが必要だと訴えました。
また、ILCの社会的な効果として、外国人研究者などとの交流できることや周辺地域の子どもたちの学力が向上し、地域活性化につながることも示唆。経済効果が約4・3兆円と試算されていることや新産業・技術の創出、人材育成につながることを述べました。

最後に石川氏は「ヒッグス粒子や暗黒物質などのノーベル賞級の研究が待っている」として講演を結びました。
いわてILC加速器科学推進会議が総会を開催
いわてILC加速器科学推進会議が総会を開催
いってILC加速器科学推進会議が総会を開催
新年度となり、東北全体としてILCの実現に向けた取り組みがさらに活発化することが予想されます。市は、東北ILC推進協議会や県、周辺市町村などと連携し、市民の皆さんと一緒に積極的な取り組みを実施していきます。
また、本年度も職員を派遣して出前講座を行いますので、積極的に活用してください。



総会であいさつを述べる亀卦川代表幹事